

勝田断裁機一筋、半世紀

名東紙工

オプション機能搭載機を増設

高精度と耐久性を評価

名東紙工(株)(本社/名古屋市中区長先町187-1、都筑強社長)は、ミシン目・抜き・折り・製本など、紙加工のプロフェッショナル集団として印刷会社の信頼を築いている。そんな同社の後加工の「要」とも言える断裁工程を支えているのが勝田製作所製の断裁機だ。一昨年には、トンボマスター(角度調整機能)、クランプの後ろ押さえ機能のオプションを搭載した最新鋭の断裁機を増設。現在全4台の勝田断裁機を設備し、「巧みの技」を生み出す同社の紙加工技術を支えている。

同社は昭和44年9月、間、断裁機を8〜9台は先代の都筑梅夫氏が「裁ち屋」として断裁機1台で創業。以降、断裁機を増設しながら馬力のある裁ち屋として印刷会社の信頼を築き、「平成の時代」に入ると、名古屋で一番馬力のある裁ち屋になっていた」と2代目の都筑強社長は振り返る。

そんな同社は今年で創業48年を迎える。「この断裁機を使用してきた元製本者」これまでに何社もの断裁機を使用してきた元製本者。この断裁機を使用してきた元製本者。この断裁機を使用してきた元製本者。



都筑 社長

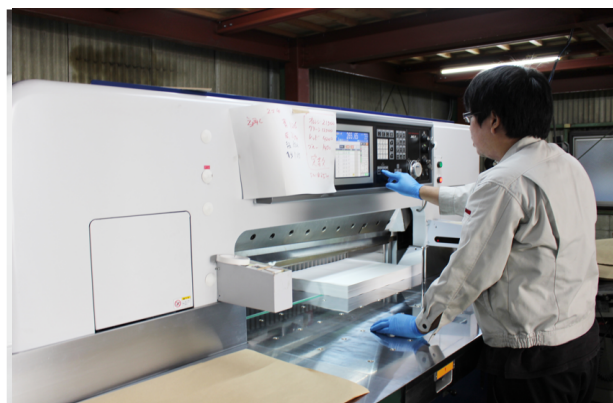
「裁ち屋」から総合紙加工業へ業態変革
同社は断裁機を迎えたのは、24年前のこと。折りは、本会社のベテラン断裁オペレーターは、勝田製作所製の断裁機に導入したものを除いて、2台目以降、当社ではすべて勝田製作所の断裁機を使用してきた」と都筑社長。勝田断裁機を初めて導入した時期の詳細は不明だが、40年以上の勝田ユーザーであることは間違いないさうだ。

「裁ち屋」から総合紙加工業へ業態変革
同社は断裁機を迎えたのは、24年前のこと。折りは、本会社のベテラン断裁オペレーターは、勝田製作所製の断裁機に導入したものを除いて、2台目以降、当社ではすべて勝田製作所の断裁機を使用してきた」と都筑社長。勝田断裁機を初めて導入した時期の詳細は不明だが、40年以上の勝田ユーザーであることは間違いないさうだ。

「折り機メーカーの経験を生かして、断裁だけでなく、抜き、製本、ミシンなどの設備を導入し、総合紙加工業へと業態を拡大させていった。また、これにともない、馬力で勝負するのでは、他社にできない技術で勝負する『総合紙加工業』へと企業体質を変革させていった(都筑社長)」

そして同社は一昨年には、マイクロシンの仕事を開始するため「トンボマスター」と「後方クランプ」のオプション機能を搭載した勝田製の最新鋭断裁機を導入した。トンボマスターは、紙の伸縮によるトンボのズレをバックゲージで補正して簡単に見当合わせできる機能。オペレーターは、「これまでは段ボール紙などを挟んで断裁していたが、この機能によりバックゲージが斜めになるため、より正確に断裁作業が可能になった」と評価。また、後方クランプは紙の後端カールを押さえる機能で、安定して高精度の断裁を行うための機能。オペレーターは「クランプの下降と連動して後方クランプが後端をクランプするの追従ができる」と評価している。

同社は今年1月に名古屋の吹上ホールで開催された光文堂新春機材展Print Doors 2017に出展。デザイン力と紙加工技術を融合させ、広告代理店やデザイナー、印刷営業向けに、抜き、特殊折りなどの技術に応用した総合パッケージを紹介した。



角度調整、後ろ押さえのオプション機能を搭載した新型断裁機



全4台の勝田断裁機が活躍する

都筑社長は、「パッケージなどの紙製品を作っていくには、厚紙の断裁技術が必要。今後、勝田製作所にも技術的な協力を仰ぎながら企業体質を変革していきたい」と勝田製作所に大きな信頼を寄せる。同社は今後も勝田断裁機を使い続けていく方針で、「勝田断裁機一筋、半世紀」を迎える日も遠くはなさそうだ。